

Q: 岐阜市の中心をとなる長良川において、「国土強靱化」工事による河川工事で生態系破壊が進んでいる。環境保全行政から何か対策はとられているのか？

A: 私たちの生活は、様々な生物の恩恵を受けて成り立っています。

アユなどの淡水魚は鵜飼や釣りなど、私たちの生活に深くかかわっています。また、長良川は、多くの魚類や水生昆虫、両生類のオオサンショウウオなど、多くの生きものの棲家となっています。河畔には多くの植物が生育し、カヤネズミなどの哺乳類も生息しています。

当該工事においては、私たちの暮らしや生活を守る治水と、生物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全について、その施工者の組織する委員会等において、検討、検証等なされているものと思います。

岐阜市におきましても、レッドリスト・ブルーリストの改訂を期に、改めて関係機関に対して、生物多様性や生態系を守る働きかけを行ってまいります。

また、岐阜市では、新村安雄さんの「アユの産卵観察会」の広報などを行い、岐阜市の中心地でアユが産卵する様子を、子どもたちを含む市民の皆さんにお知らせし、また関係者の皆様と情報交換をしております。当課の開催するシンポジウムの開催や、各種イベントを通じて、岐阜市の自然や生物多様性の重要性の周知に努めてまいりたいと思います。

Q: 地球上の生物がこれからもバランスを保ち、未永く生息していくために必要な行動は何か、身近な生活の中でできることを教えてください。

A: 環境省は生物多様性を守るために以下の行動を推奨しています。

1. 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。
2. 生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。
3. 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。
4. 生きものや自然、人や文化の「つながり」を守るため、地域の活動に参加します。
5. エコマークなどがついた環境に優しい商品を選んで買います。

また、岐阜市では、今回のシンポジウムで紹介があった大洞や達目洞、それ以外の様々な場所で様々な団体が自然環境保全活動を行っています。ご興味ございましたら環境保全課までお問い合わせください。